

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市青少年問題協議会（書面会議）
- 2 開催日時 令和3年3月23日（火）から令和3年3月31日（水）まで（意見聴取期間）
- 3 出席した者の氏名（回答書の提出をもって出席とみなす）
 - (1) 委員
田山喜子，浅川宗典，大津辰夫，中山一美，八木岡しづ子，立川力，亀田龍太郎，水嶋陽子，小宮山祐子，松本正勝，鎮目俊英，吉井雅一，綿引健
 - (2) 執行機関
高橋靖，野澤昌永，所畑智美，鎌田洗一，大和田文香
 - (3) その他
- 4 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 本市における青少年育成団体等の現況及び本市による活動支援について（公開）
 - (2) 新型コロナウイルス禍の中で実施した活動の事例（公開）
- 5 非公開の理由
- 6 会議資料の名称
 - (1) 令和3年第1回水戸市青少年問題協議会（書面開催）
 - (2) 令和3年第1回水戸市青少年問題協議会（書面開催）別冊資料
- 9 回答書の内容
 - (1) 本市における青少年育成団体等の現況及び本市による活動支援について
 - ・水戸市青少年相談員活動
今年度は新型コロナウイルス禍においてもほぼ例年どおりの活動を行いました。
街頭補導活動
 - ・水戸駅周辺の巡回・声かけ活動 実施回数 139回
 - ・市内中学校区ごとの巡回・声かけ活動 実施回数 85回
 - ・水戸駅ペDESTリアンデッキ・ハロウィンイベントにおける特別補導
 - ・中学校卒業式特別補導（赤塚中，見川中，笠原中，常澄中）
 - ・中学校卒業式に伴う水戸駅周辺夜間特別補導
 - 茨城県主催事業
 - ・「青少年の健全育成に協力する店」登録活動：282店舗訪問（うち新規登録店舗5店）

- ・新型コロナウイルス禍の影響は、各活動において、各団体との協力・協働、情報共有などが十分にできないことなどがありました。
- ・昨年からの新型コロナウイルス禍の中、各団体の活動、大変なことが多いと思います。今年度も新型コロナウイルスが落ち着く心配がなく、もう少し様子を見て、落ち着きある時期にさまざまな活動を再開して行ってほしいと思います。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮した各団体の取組及び市の活動支援を知ることができました。今後もよろしく願いいたします。
- ・ほとんどが生涯学習課に事務局を置く団体なので、概要、活動状況、水戸市の支援内容が分かりやすかったです。
- ・青少年育成団体、青少年団体、関連団体と支援の幅が広く、多岐にわたり、職員のかたの御苦勞を拝察いたします。
- ・みと青年会については、具体的情報が少なく、どのような人が会員になっているのか等、実態が分かりません。
- ・新型コロナウイルス禍により、さまざまなイベント、集会等がやむなく中止される中、英知をもってチャレンジされた事例を拝読させていただき、感動いたしました。オンライン会議やYouTube等の活用など、水戸市もイケてるな、さすがだと思いました。対策、工夫次第でいろいろな体験活動が新型コロナウイルス禍であってもできるという事例を積み上げられたことは大きな成果だと思います。
- ・各団体の代表者による研修会等を実施しているが、その内容や学んだことがどの程度青少年育成を行うかたがたや保護者、地域のかたがたへ伝わっているか、課題があると思います。代表者が研修を受けたことを、より多くのかたがたへ伝えていくことが、今後の課題であると考えます。
- ・活動状況の参加者数が示されないと、市による活動支援の意義は判断が難しいように思います。
- ・新型コロナウイルス禍の状況はまだ続くことが予想されます。工夫をしながら形を変えて実施するとともに、この状況に合わせた事業の再構成が求められる。これまでの経験にとらわれない活動を考えていく必要があると思います。
- ・新型コロナウイルス禍の中で、夏休みに「社会を明るくする運動」の一つとして、作文のお願いを小中学校にしたところ、例年とあまり変わらない協力をいただいた。水戸地区保護司会として感謝している。学校訪問もお願いしているが、こちらの方は2中学校以外は開催のチャンスがなく残念だった。この先も御協力をお願いしたい。

(2) 新型コロナウイルス禍の中で実施した活動の事例

- ・新型コロナウイルス禍においても、ある程度必要な活動ができたことは、今後活かせることと思います。
- ・少年の主張大会の入賞者の発表をYouTubeで発信し、大勢のかたに聞いてもらったのは素晴らしいことですね。
- ・社会環境向上研修会は、青少年相談員をしているとき、何度も出席しましたが、正直あまり魅力あるものではありませんでした。青少年関係団体がそれぞれ似たような

研修会をしているので、新鮮味がありませんでした。しかし、今年度は斬新な企画、興味がわきました。

- 令和2年度後半は、新型コロナウイルス禍の中、いかにして感染防止に気を使い、中止にせず、できる範囲で工夫が見られ良かったです。
- 71件もの新規要請事業につなげた担当職員の皆様に拍手喝采いたします。すごいパワーです。結局のところ、民間の団体活動も行政の成果も実績も、人次第（メンバーなり、担当者なり）、心意気次第ということでしょうね。
- 水戸市立第四中学校では、水戸市植物公園の協力をいただき、学校を花でいっぱいにする事業を行いました。生徒による西川園長へのお礼文を拝見すると、心が癒されたと、花々の力についてさまざま綴られていました。
- Withコロナ時代の手本となる活動ですので、広く周知してほしいです。
- 発表会や会議はインターネットを利用してできている。スポーツ大会は感染予防対策をしながら実施できるようになった。子どもたちに我慢させることなく、活躍の場を与えていきたいです。
- 保護司会のメンバーは高齢者がほとんどであるため、本当に活動はしなかった。代表役員会（県を5ブロックに分けたそれぞれの会長）は2回ほどできたが、他は書面表決にした。この先も無理はせずに進みたいと思っている。他県では、新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種券も届いていると聞いている。そうなると話は変わってくるかなとも考えられる。